

(様式2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（企画・引率者用）

平成25年12月2日

所属・職名：秋田大学国際交流センター・准教授

氏名：牲川 波都季

研修期間：平成25年9月3日～平成25年9月27日

研修先：英文 University of Victoria, English Language Center

：和文 ビクトリア大学 英語学習センター

○研修成果

下記の項目に関し、研修の成果が見られた。

【英語力向上】

出発前後の TOEFL-ITP の結果を比較したところ、4名のうち2名については合計点に伸びが見られ、特にうち1名は60点もの得点増が見られた。また、合計点では変化なし、減点した受講生も見られたが、Listening comprehension については全員得点が上がっており、ホームステイも含む会話中心の英語研修内容により、実践的な英語能力が向上したといえる。

【カナダ文化についての知識獲得】

例年、英語授業の方法の違いに驚いたという学生が多いが、今回の研修においては放課後の活動や週末のアクティビティー、ホームステイによって、自身を普段取り囲んでいる文化との違いを感じた例が多かった。詳細については、「研修全般にわたる感想」の各受講生の学びについてを参照のこと。

【事前・事後研修】

今年度はじめて、本支援事業を、単位取得可能な正規の授業科目として設定した。事前・事後研修を含めたスケジュールは下記のとおりである。事前研修においては英語研修の目的の明確化を図り、事後研修においては報告書執筆と報告会準備によって英語研修で学んだものを再認識する機会とした。

(様式2)

事前研修		
6月13日(木)	16:10-17:40	目的／渡航準備オリエンテーション
6月14日(金) TOEFL ITP 申し込み締め切り		
6月20日(木)	16:10-17:40	事前研修② 事前学習のための ALL-Rooms 利用法 講義
7月4日(木) 国際課への書類提出締切		
7月4日(木)	16:30-19:00	事前研修③ TOEFL ITP 試験 (3990円)
8月初旬		事前研修④ 危機管理について
8月31日(土) TOEFL ITP 申し込み締め切り		
カナダ ビクトリア 大学 英語 研修		
9月2日(月)	秋田出発, ビクトリア到着	
9月3日(火) 9月27日(金)	ビクトリア大学での英語研修	
9月28日(土)	ビクトリア出発	
9月29日(日)	秋田到着	
事後研修		
10月10日(木)	16:30-19:00	事後研修① TOEFL ITP 試験 (3990円) 英語力伸長度確認
10月24日(木)	16:10-17:40	事後研修② 目標達成度の共有、報告書の下書き 作成
10月31日(木)	16:10-17:40	事後研修③ 最終報告書の作成、報告会の準備
11月18日(月)	17:40-19:00	事後研修④ 報告会リハーサル
11月25日(月)	12:05-12:45	事後研修⑤ 報告会実施

○研修全般にわたる感想

授業化したはじめての今年も、事前・事後研修の充実を図り、また1年生のみを対象とした以外は、昨年度までの方法を踏襲して事業を実施した。全体としては、T&D ビクトリアサポートセンターの林大輔氏の支援もあり、無事に終了したと言えるが、思いのほか朝晩の気温が低かった、自分のプレイスされた英語クラスのレベルが予想外に低かった、通学に交通費代がかかったといった学生からのコメントもあった。また帰国時に、空港への到着が遅れ、予定の便を乗り逃がしたという学生が2名出た。最終的には無事に帰国できたが、経済的負担や本学での授業開始日に間に合わなくなるといった問題が生じた。事前研修で再度確認していく必要が

(様式2)

ある。

報告書や、研修前・後に受けた TOEFL-ITP の結果から、各参加学生には以下のような学びあったとされる（報告会での発表順）。

	報告会でのテーマ	学習成果
阿部かなえ	大学生活	英語に関してはリスニングを中心に著しい伸長が見られた。英語の授業だけでなく、他の大学主催行事にも積極的に参加し、海外での大学生活ならではの経験をもてたように思う。
佐伯文哉	放課後	英語に関しては読解能力に伸びが見られた。放課後には日本の他地域からの留学生との交流を深め、また週末の課外活動、自主的なバンクーバー旅行など、アクティブに活動した。
有明 侑子	ホームステイ	英語に関してはリスニングに伸びが見られた。それ以上に、ホームステイ先が日本ではまれな同性婚カップルであったことから、新たな家族観という大きな学びを得た。
井上悠	交通手段	英語に関してはTOEFL-ITPの全技能において著しい伸長が見られた。日本とカナダの交通システムの違いが特に印象に残ったようだが、公共交通の問題に広がりうる課題だと思う。

なお本事業では、英語力向上面での事前研修のサポートを教育推進総合センターの濱田陽講師から得た。牲川は授業担当教員として研修全体を統括し、国際課の正木が、手続きや林氏を通じてのビクトリア大学との連絡を担当した。

※報告書は、国際交流センター刊行物（Web サイト含む）に公開を予定しております。
提出については電子データにてお願い致します。提出先：各部局担当者